ドナルド・キーン先生を偲ぶ

～キーン先生の 2012 年の札幌大での記念講演を振りかえる～

札幌大学教授　御手洗昭治(3/01/2019)

日本と日本文学、それに日本の伝統文化をこよなく愛し、それらを海外に紹介すると共に戦後の世界に日本文化研究の礎を築いたドナルド・キーン先生が２月 24 日、96 歳でお亡くなりになった。

ニューヨーク生まれの先生は、16 歳の時に飛び級でコロンビア大学に入学。在学中にアーサー・ウエリーの『源氏物語』(The Tale of Genji)との出会いがあり、それがきっかけとなり日本に関心を持たれた。松尾芭蕉の『奥の細道』、吉田兼好の『徒然草』といった古典作品のほか、親交のあった三島由紀夫の文学作品や『明治天皇』、加えて、 間宮林蔵の樺太探検に関する歴史書を含む多くの著書を海外に紹介された。

その後、キーン先生はハーバード大学院時代に歴史学者で後にケネディ政権下で米国駐日大使を務めたエドウィン・ライシャワー教授の授業を受ける機会があり、親交を深められた。私は、本学卒業後の米国大学院留学時代にライシャワー教授の講演『世界の中の日本の役割』を聞き、お会いする機会があった。1989 年の９月、そのライシャワー教授がハル夫人を伴って、北海道に一週間ほどの講演旅行に来られ、公式通訳を仰せつかった。学会の講演やテレビ北海道開局記念番組『ライシャワーと北海道』などにも教授夫妻と共に通訳として出演する機会にも恵まれた。

そのような縁もあり、2012 年の本学 45 周年記念の年に、私が窓口となりキーン先生を本学にお呼びする運びとなった。当時、東日本大震災を機に日本国籍を取得されたキーン先生には、日本中から多くの講演依頼が殺到していた。年齢と体力的な問題もあり、ほとんどの講演依頼をお断りされていた。無理も承知で電話にて先生と交渉を行ったが、私が留学時代にキーン先生の著書 *The Japanese Discovery of Europe, 1720-1830*（西洋人の日本発見）や日本文学書を読んだことがあり、ライシャワー教授との関係や道内講演旅行でご一緒したことをお伝えすると、即座に「快諾」して下さった。縁とは不思議なものである。

ちなみに、キーン先生は、米国駐日大使を務めたライシャワー教授の東京滞在中にも、大使館主催の昼食会に招待されたり、また大使を通して三島由紀夫や日本の文学者との交流を持つ機会があったという。

キーン先生は、７月 18 日に本学の学生達と教員、それに一般の参加者にむけて『世界の中の日本文化と日本文学』と題した刺激ある講演をして下さった。ただし、当日の講演希望が多かったことから、本学では抽選を行った。プレアホールの集客数は 450 名である。

モニター室も含む計 480 名の枠に 1300 通以上の応募があり、大学関係者は対応に追われた。

先生は、講演会場には入れなかった人たちのために、わざわざ講演前に気を配ってモニター室に足を運んで下さり、感謝のお言葉を述べられた。モニター室の参加者にとっては思わぬビッグ・ハピー・サプライズとなった。

今年４月には、キーン先生の死後初めての作品『ドナルド・キーンのオペラへようこそ！われらが人生の歓び』が、文芸春秋から発行される。先生が本学で講演された『世界の中の日本文化と日本文学』の内容の一部も紹介されることになっている。うれしい限りである。

訃報と発行時期が重なったのは、あまりにも偶然と言えよう。日本文学と日本文化のトランスミッター（伝道師）であり、かつ気さくでユーモアも忘れなかったドナルド・キーン（鬼 怒鳴門）先生のご冥福を心からお祈り申し上げたい。